

平成22年度生産性限界打破モデル実践事業交付決定団体一覧

No.	事業種類	都道府県名 市町村名	事業実施主体	対象作物・ 施設名	取組概要	予定事業費		交付決定年月日
						事業費 (千円)	うち国費 (千円)	
1	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 美唄市	美唄市水稲 直播研究会	水稲、小麦	水稲について、乾田直播機を導入し、農機具費の低減を図るとともに、漏水等のため 直播栽培が導入されていなかったほ場において、新たに湛水直播栽培を導入し、労働 費の低減を図る。 また、麦については、収量性の高い新品種「きたほなみ」を導入し、収益性の改善を目 指すとともに、連作による病害の発生等を回避し、適切な大豆・麦の輪作体系を構築す るため、新たに不耕起間作小麦栽培を導入し、品質及び収量の向上を図る。	1,470	1,400	平成22年5月18日
2	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 芽室町	JAめむろ馬 鈴薯作業受 託組合	馬鈴しょ	馬鈴しょについて、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題とな る土塊等夾雑物を予め除去することによって、夾雑物による打撲回避や収穫作業の省 力化を図るとともに、高品質化及び規模拡大を可能とする栽培システムを構築する。 さらに、慣行栽培との比較実証ほを設置し、萌芽への影響等の生育状況調査、労働 時間・規格内収量等の比較調査を実施することにより、コスト削減効果を検証する。ま た、実証結果を生産者に提示することにより、ソイルコンディショニング栽培技術の効果 に対する積極的な普及活動を併せて実施する。	366	366	平成22年5月18日
3	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 新得町	新得町種馬 鈴薯 生産組合	馬鈴しょ	馬鈴しょについて、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題とな る土塊等夾雑物を予め除去することによって、夾雑物による打撲回避や収穫作業の省 力化を図るとともに、高品質化、規模拡大を可能とする栽培システムを構築する。 さらに、労働時間の実測による慣行栽培との比較を行うとともに、ソイルコンディショ ニング栽培技術の培土法(播種と同時に培土し、中耕・培土を省略)が生育及び収量に与 える影響を検証し、コスト削減効果を把握する。	84	84	平成22年5月18日
4	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 斜里町	斜里町農業 協同組合	馬鈴しょ、 小麦	馬鈴しょについて、ソイルコンディショニング栽培技術を導入し、収穫作業で問題とな る土塊等夾雑物を予め除去することによって、夾雑物による打撲の回避や収穫作業の 省力化を図り、高品質化、規模拡大や適正輪作等を可能とする栽培システムを構築す る。 また、小麦については、乗用刈倒し機・天日乾燥を組み合わせた雨害リスク低減技術 を導入し、生産コストを低減させる栽培システムを構築する。	2,314	2,203	平成22年5月18日
5	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 美幌町	美幌ポテト倶 楽部	ばれい しょ、てん 菜	ばれいしょの種子生産について、ソイルコンディショニング栽培技術を導入すること により、収穫作業で問題となる土塊等夾雑物を予め機械で除去し、収穫物の打撲回避と ともに労働時間の削減を図り、高品質な種子の提供及び規模拡大を可能とする栽培体 系を構築する。 また、てん菜については、直播栽培技術の導入によって、育苗作業を省略し、他作物 との作業競合の回避を可能とする栽培体系を構築する。	682	649	平成22年5月18日

6	生産性限界打破 モデル実践事業	北海道 鹿追町	鹿追町農業 協同組合	野菜(キャ ベツ)	キャベツについて、生産に係る労働時間の約半分を占める収穫・調製作業については有効な技術の導入が進んでおらず、手作業による重労働が課題となっている。このため、加工・業務用キャベツ生産において省力・低コスト化に有効と考えられる全自動キャベツ収穫機を核とした機械化一貫体系の確立に向けて、収穫機適正品種及び栽培体系確立のための実証試験等を実施し、キャベツの低コスト・安定供給のためのシステム構築に取り組む。	5,323	5,323	平成22年5月18日
7	生産性限界打破 モデル実践事業	青森県 五所川原市	ごしょがわら フロンティア 農業実践組 合	水稻、小麦	水稻について、乾田直播栽培の導入による生産コスト削減等を図ることとし、不耕起播種機、レーザー均平機等をリースにより導入し、労働時間低減による生産コストの削減を図るとともに移植栽培との単収格差縮小に努める。 小麦については不耕起播種の導入による耕起作業等の省力化により生産コストの削減を図るとともに、サブソイラーを用いた湿害対策の徹底によって単収の向上を図る。更に、不耕起播種機を利用してホールクroppサイレージの作付に取り組むことで、機械の効率利用による機械費の低減を図る。	4,504,000	4,504,000	平成22年4月21日
8	生産性限界打破 モデル実践事業	岩手県 平泉町	農事組合法 人 アグリ平泉	小麦、大豆	小麦の新品種「ゆきちから」の導入と大豆300A技術の一つである「小畦立直播栽培」の導入による麦・大豆の高品質化・増収効果を実証する。 併せて、麦・大豆の生育期の病害虫・除草防除、大豆の中耕・培土の作業における栽培管理ビークル利用による生産性向上について検証する。	1,294,600	1,294,000	平成22年4月22日
9	生産性限界打破 モデル実践事業	秋田県 大仙市	農事組合法 人 中仙さくら ファーム	水稻、大豆	水稻の湛水直播技術及び大豆の300A技術等の技術体系について、汎用コンバイン、多目的田植機(移植・直播)、ロータリーカルチベーター等をリースにより導入して実証を行い、地域への早期の普及、米の生産費の更なる縮減と大豆の高単収・高品質生産を推進する。	8,919,250	8,855,000	平成22年4月22日
10	生産性限界打破 モデル実践事業	秋田県 大潟村	大潟村カント リーエレベ ーター公社	水稻、大豆	水稻(主食用)について、湛水直播栽培を導入し、移植栽培との組み合わせで播種期や収穫期の作業ピーク分散、生産性向上に取り組む。水稻(米粉用)について、多収性品種の導入により高単収を確保するとともに、肥料分の多い大豆跡の水田に多収性品種を作付けることで施肥低減を図り、コスト削減に取り組む。 また、大豆について、もみがら暗渠排水を基本に大豆300A技術等の実証を行い、地域への普及を図り、高単収・高品質生産を推進する。	840,000	800,000	平成22年4月21日
11	生産性限界打破 モデル実践事業	茨城県 筑西市	田谷川協業 組合	小麦、大豆	小麦について、多収性で連作障害に強い新品種「きぬの波」を導入することによりコスト低減を図る。大豆について、大豆300A技術導入に係る不耕起狭畦密植栽培、耕うん同時畦立播種栽培の導入により省力化、コスト低減を図る。	3,580	3,580	平成22年5月21日
12	生産性限界打破 モデル実践事業	愛知県 西尾市・一 色町	西尾幡豆高 能率 麦大豆研究 会	小麦、大豆	麦について、収穫期が梅雨と重なり、品質や収穫に大きな影響を受けやすいことから、従来品種と比べ、早生で収量性の高い新品種「イワイノダイチ」の導入及び拡大を図る。 大豆について、播種期が梅雨と重なることや大規模化による作業の集中により播種適期を逃しやすいため、施肥播種同時作業機を導入し、播種作業の省力化を図り、適期播種を行うとともに、併せて播き遅れに対応した狭畦無中耕無培土栽培の実証を行う。 小麦・大豆の播種・防除の効率化を図るため、施肥播種同時作業機用トラクター及び	4,589	4,370	平成22年5月17日

13	生産性限界打破 モデル実践事業	岐阜県 養老町	有限会社 クリーン ファーム日吉	水稻、大豆	水稻について、湛水直播栽培の導入による育苗及び田植え作業の省力化に取り組むとともに、多収性品種「モミロマン」を導入し、単位量当たりのコスト削減を図る。また、労働時間の削減、直播栽培と移植栽培の組合わせによる作期分散により、規模拡大を図る。多収性品種の乾燥のため新たに遠赤外線乾燥機を導入し、生産量の拡大に対応可能な体制を構築するとともに、乾燥時の労働負担や燃料コストの低減を図る。 大豆について、倒伏による収量低下を回避、軽減する技術として、摘心技術を導入し、機械の改良を行いながら、技術の確立を目指す。	420	400	平成22年5月13日
14	生産性限界打破 モデル実践事業	兵庫県 豊岡市	中谷農事組 合法人	小麦、大豆	麦について、湿害対策に高い効果をあげている「耕うん同時畝立て播種栽培技術」を導入し、収量の安定化を図る。 また、新たに、輪作体系に大豆を加え、収益性の向上を図るため、大豆においても「耕うん同時畝立て播種栽培技術」を導入するとともに、コウノトリの舞い降りる田んぼとして認定を受けている当組合の水田で低肥料・低農薬での栽培が可能な大豆の契約栽培に取り組む。 耕うん同時畦立て播種機栽培技術の実証試験を行い、コスト縮減効果の分析を行い、成績検討会等を通じて、地域への営農体系・技術の普及・定着を図る。	3,125	1,972	平成22年6月4日
15	生産性限界打破 モデル実践事業	広島県 世羅町	尾道市農業 協同組合	水稻、麦、 大豆	水稻鉄コーティング直播栽培、大麦・はだか麦新品種、大豆不耕起播種・狭畦栽培技術等の新技術の導入による労働時間の削減、単収の向上に取り組むことにより、水田輪作体系における生産コストの大幅な削減を図る。	840	800	平成22年5月14日
16	生産性限界打破 モデル実践事業	沖縄県 糸満市・八 重瀬町	南部地区さ とうきび生産振 興対策協議 会	さとうきび	さとうきびについて、台風や干ばつの被害を避け、かつ降雨の多い収穫時期を避ける必要があり、高齢化の進む中、ハーベスターの機械収穫率を向上させる等の観点からも夏植型秋収穫栽培体系を確立する事が必要である。さらに生長が休止する冬でなければ糖度が上昇しにくい従来の品種に替えて、生長期の秋でも糖度が上昇しやすい新品種の導入し、従来の2年1作の栽培体系から、5年4作の栽培体系への転換を図る。	29,321	29,321	平成22年5月25日